

週報 こひつじ

第41巻 6号
大津キリスト教会
菊池郡大津町室 119
TEL 096-293-4470
FAX 096-293-4961
牧師 米村 英二

とばによる」と。

のだろう。

パンの奇蹟

「ここに少年が大麦のパンを五つと小さい魚を二匹持っています。しかし、こんなに大せいの人々では、それが何になります。」そこで、イエスはパンを取り、感謝をささげてからすわっている人々に分けてやられた。また、小さい魚も同じようにして彼らにほしいだけ分けられた。そして、彼らが十分食べたとき、弟子たちに言われた。「余ったパン切れを、一つもむだに捨てないように集めなさい。」(ヨハネ六の九、一一、一二)

その一 人はパンだけで生きるのではなく

イエスが五千人をパンで養われたという有名な箇所である。

この出来事を通してイエスは何を教えようとしたのだろうか。イエスは公生涯に入る前に、荒野で悪魔の試みに会われた。悪魔は第一に言つた。

「あなたが神の子なら、この石がパンになるように、命じなさい」

(マタイ四の三)

彼の意図は、おそらくこうだつたのだろう。

「イエスよ、あなたは伝道したいのか。群衆の心を捕らえたいのか。それならまず彼らにパンを与えるがよい。彼らはこそつてあなたのところにやって来るだろう」

「イエスは烈火のごとく怒った。父は生意気を言うな。好きでもないのです」

「生きがいのある仕事をしたいのです」

「ぼくを神学校に行かせてください。父は悔しそうに言つた。

「ちゃんとした会社に入つて、自活できているというのに、なぜわざわざ人様の世話をにならなければならないのか」

「この仕事を私がやつてきたのは何のためだと思つていい。おまえた父のその言葉が、結婚後、再び私

の心によみがえってきた。一人のときは、物は少なければ

當時はまだ食べることで精一杯少ないとばかり。フランスエスコのように貧しく生きることは喜びだった。

ところが、この日、イエスの説教を聞いている者の数は多く、気がつくと夕暮れになつていて。疲れた群衆にイエスは深く同情し、とうとう彼らを空腹のまま帰したくないと思われた。

こうしてパンの奇蹟は起つた

のである。

それにもかかわらず、私は思う。人がパンだけで生きる存在でないというのには不動の真理である。

そのことを私に力強く教えてくれたのはキリスト教だった。

そこで私はパン以上ことのために生きたと思い、父に言つた。

「宣教師といつしょに神戸で働くことになる。食べることはできるが、それ以上のものはないだろう」

父は悔しそうに言つた。

「ちやんとした会社に入つて、生活できているというのに、なぜわざわざ人様の世話にならなければいけないのか」

そのときは氣にも留めなかつた

この仕事を私がやつてきたのは何のためだと思つていい。おまえた父のその言葉が、結婚後、再び私

の心によみがえってきた。

「一人のときは、物は少なければ

當時はまだ食べることで精一杯少ないとばかり。フランスエスコのように貧しく生きることは喜びだった。

だが結婚し、家庭を持ち、子どもが生まれると、そうはゆかない。

生活の問題、つまりパンの問題は私の心に重くのしかかつてきました。

にもかかわらず振り返ってみると二歳で会社をやめ、伝道の道に入つて以来、五〇数年がたつのだが、驚くことに神は私に必要なパンを豊かに与えてくださつていのである。

「あなたの神、主は、この四十年

の間あなたとともにおられ、あなたは、何一つ欠けたものはなかつた」（申命記 二の七）

と、イスラエルの民に神は言われたが、それは私への言葉でもあつた。神は実にやさしい方だったのである。

イエスも同じである。（続）

今日の礼拝

- 第一礼拝は午前一〇時から、
- 教会学校は午前一〇時から。
- 説教は米村牧師。

先週の礼拝

○司会は西岡潤也さん。説教は、一ヨハネの手紙から「世を愛してはならない」について。

○礼拝参加者は、第一礼拝が四名、第二が四三名、合計八四名（男二七、女五七）。それに子どもが五名、合わせて八九名でした。

牧師身辺

先週も申し上げましたが、新しい本ができました。題は『イエスの処方箋』。長く教会を支えてくださった皆様に感謝を込めて、お一人に一冊差し上げることにいたしました。いつでも教会においてになつたとき、お受け取りください。二冊目からは五〇〇円ですが、伝道に用いてくださつたらうれしく思います。

*

悲しい知らせです。ぼくたちの親しい友人で、静岡県掛川市

会においでになつたとき、お受け取りください。二冊目からは五〇〇円ですが、伝道に用いてくださつたらうれしく思います。

二〇年前に『結婚・家庭・教育』という本を書きました。七ページほどの小冊子でした。いくつかの教会でそのテーマで

お話ししたところ、ぜひ本にしてほしいと言われ、まとめたものでです。

問わずにおられません。

彼ほどに愛と思いやりがあり、他の人の祝福を優先に考える人があつたでしょうか。

ジョンさんは、愛の勇士でした。そのためのどんな労苦も惜しまず、しかもその行動は迅速でした。

熊本地震の時、ただちに電話をくれたのはジョンさんです。電話がすむと、翌朝には多くの援助物資を車に乗せ、遠く静岡県掛川から熊本に向かっていました。一睡もせず走り続け、地震の二日後に、ぼくたちの前に現れたジョンさんを見て、ぼくたちは驚き、なんと眞実な友をもつたことかと感動し、また慰められたことでしょう。

そのジョンさんと、もう地上では会うことができないといふだけ聞いており、まだはつきりはわかりませんが、発病し、二日後には息を引き取られたと聞きました。病名は、自己免疫疾患として三人の子どもさんたちはどうい。ましてや妻の直美さん、そして三人の子どもさんたちはどうい。どうかお祈りください。神の慰めが彼らとともにあるよう